

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02792

研究課題名（和文）演出技法を発問と役割演技に応用した、多様な感性を引き出す道德教育手法の実践的開発

研究課題名（英文）rengyo

研究代表者

蓮行（re, ng）

京都大学・経営管理研究部・特定准教授

研究者番号：10591555

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、「子ども達の発達度や考え方の多様性を包摂し、真に多面的・多角的に考えさせる道德教育はいかなる方法で達成できるのか？」を研究課題とし、道德教育の重要な要素である「発問」と「役割演技」における表現活動に演出技法を応用し、多様な子供達の多様な感性を引き出す新しい道德教育手法の開発、実践に取り組んだ。

舞台俳優による演劇技法を活用した授業と、教員による通常の道德授業の比較調査を行い、授業中の発話、行動、児童の記述の質的調査、観察者による比較調査を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

道德の指導法は、「読む」道德から「考え、議論する」道德への質的な転換を求められている。

本研究では、演劇の「演出技法」を使い、俳優がファシリテーターとなって学習者と共に対話（議論）のプロセスを踏みながら共に気づきを得ていく」という、これまでにない新たな道德教育プログラムを開発した。「教えない」授業デザインの軸とし、舞台俳優である講師は、児童に演出家の役割を委ね、児童の演出に従って演じる。単に「教えない」だけでなく、むしろ講師が児童から「教えられる」ないし「学ぶ」という通常の授業とは逆転した構図が生まれ、それが教材に関する児童の多様な解釈を促すというこれまでにない授業プログラムが開発された。

研究成果の概要（英文）：In this research, the question is: "What methods can we use to achieve a moral education that is inclusive of the diversity of children's developmental levels and ways of thinking, and that makes them think truly from multiple perspectives and perspectives?" and applied staging techniques to expressive activities in 'questioning' and 'role-playing', which are important elements of moral education, and worked on the development and practice of new moral education methods that draw out the diverse sensibilities of a variety of children.

A comparative study of classes in which theatre techniques were utilised by stage actors and regular moral education classes by teachers was conducted, with qualitative research on speech, behaviour and children's descriptions during the classes, and comparative research by observers.

研究分野：アートコミュニケーション

キーワード：道德教育法 教材開発 アクティブラーニング 主体性 集合知 多様性 言語活動

1. 研究開始当初の背景

益々グローバル化が加速する現在、様々な文化や価値観を背景とする人々と尊重しあいながら共生できる子供の育成が求められ、道徳教育はその役割を担うものとしてより重視されるようになってきた。2018年度から小学校、2019年度から中学校で実施され始めた「特別の教科道徳」では、「児童(生徒)の発達の段階を考慮して」「物事を多面的・多角的に考え」られる道徳性を養うことが目標として掲げられ、「考え、議論する道徳」への転換を実現するため、新たな指導方法として話し合いや役割演技等の表現活動が注目され導入が進む。^{1,2}

しかし、児童生徒の多様な発達度や個性に応じて、物事を多面的に考えさせる道徳教育を達成するためには、更なる指導方法の改善が必要である。藤井³は、現行の道徳教育の構造が、資料の登場人物の心情や行動を「ごもつとも」なこととして受け入れさせるものであり、どのように感じ、考え、発言したら良いかの「筋書き」が子供に見えてしまうため、本音で考えた真剣な議論にならないと指摘する。中村ら⁴は、小学校高学年から中学校の発達段階では他者と異なることが排除要因となる傾向があり、これが多様な意見表出の障害となる可能性を示唆し、森ら⁵は役割演技等の表現活動に抵抗感を示す中学生が多いことを示した。

こういった課題に対し、子供達の発達度や考え方の多様性を包摂し、真に多面的・多角的に考えさせる道徳教育はいかなる方法で達成できるのか。本研究が核心に据える学術的問いはこのような背景となる。

2. 研究の目的

本研究では、「子ども達の発達度や考え方の多様性を包摂し、真に多面的・多角的に考えさせる道徳教育はいかなる方法で達成できるのか？」を研究課題とし、道徳教育の重要な要素である発問と役割演技などの表現活動に演出技法を応用し、多様な子供達の多様な感性を引き出す、新しい道徳教育手法の開発を目指した。

演劇という総合芸術分野で長きに渡り培われ、ドラマ教育などにも応用されてきた「演出技法」に着目し、新たな道徳教育手法の開発と実践に取り組んでいる。ここで演出技法とは、「演じる者と観る者双方の想像力を膨らませリアリティを与えるための、演技の場面設定や演じ方・見せ方の工夫」のことを指す。「考え、議論する」道徳の重要な要素である「発問」と「役割演技等の表現活動」に特に着目し、これら2要素を刷新した新しい道徳教育の実践的開発を進める。

3. 研究の方法

第1段階：道徳教育に有効な演出技法の抽出と、その応用による新手法の設計。

演劇分野で用いられる演出技法、ドラマ教育に用いられる演出技法^{6,7}についての情報収集。教育現場における道徳教育の実情や課題についての小中学校の教員へヒアリングを行った。

得られた情報の照合と分析により、道徳教育に応用可能かつ有効な演出技法の抽出に取り組んだ。

第2段階：小中学校における設計した手法の試験的実践とそれによる効果検証。

設計した道徳教育手法の試験的実践と効果検証を行った。検証方法は、俳優(コミュニケーションティーチャー)による演劇技法を活用した授業と、教員による通常の道徳授業を比較教員の通常の道徳授業の比較調査を実施し授業中の発話、行動、児童の記述(感想ノート)の質的調査を複数の観察者による比較調査を行った。

比較内容としては、()児童の発話、表情や体の動き、顔をあげている、うなずき、挙手の数。
 ()児童の回答の多様性、作文字数の増加・内容。()教員、コミュニケーションティーチャーへの実施後ヒアリングを行った。効果検証では、本研究で開発した手法による授業と、教員による授業を実施し、それぞれの手法による効果の比較分析を行った。

第3段階：実践の結果に基づく、演出技法による道徳教育手法の確立と教材化。

試験的実践で得られた設計手法による多様な感じ方の誘起効果やその実用可能性等の結果から、2つの学習指導略案と、演出技法を応用した道徳教科ワークショッププログラム実施・指導手引き書を作成した。

4. 研究成果

比較調査では、演劇技法を活用した授業では通常の授業と比べ、児童の発話分量(つぶやき等も含む)、声量、発話する児童の違い、発話内容の質の違い、といった児童による多様な「言語活動」の差が見られた。

本研究では、児童が教材・他者・自分との対話を通して教材の内容や価値を「多面的・多角的」に理解できるよう促すことを目的に、講師(俳優)のファシリテーションによるプログラムを開発した。大人から子どもへ知識を伝達するという従来の授業デザインから「教えない」授業をデザインの軸とし、児童から多様な意見が出やすい環境を作り出すための教材を開発した。ここでは、舞台俳優である講師は、児童に演出家の役割を委ね、児童の演出に従って演じるという役割を担った。それによって、単に「教えない」だけでなく、むしろ講師が児童から「教えられない」「学ぶ」という通常の授業とは逆転した構図が生まれ、それが教材に関する児童の多様な解釈を促すことができた。

共同教育学会の学会発表では、「道徳」の模擬授業を参加者に体験してもらうとともに、授業を体験しての感想や、演出技法の応用に関する意見交換を行った。

小学校の実践では、児童の発話の映像記録(テープお越し資料まで生成済み)、道徳ノートの生データを取得しており、今後質的調査、分析に取り組む予定である。

本研究にて開発した演出技法による新しい道徳教育手法の教材としての指導略案2種を以下に示す。

学習指導略案実施モデル1

主題名	かけがえのない命	内容項目	D 生命の尊さ
学年	5	教材名	命の詩 電池が切れるまで
演劇的手法のねらい	宮越由貴奈さんの詩「命」について俳優の身体を通して参加者みんなで話し合う事を目的としている。(この授業では演劇講師が芝居をし、児童が反応をする、講師がその反応に影響を受ける、という事も広義の意味で話し合っていると捉えたい)		
ねらい	注意点	注意点	
自己紹介 シアターゲーム 拍手回し 演出ゲーム	模索することの面白さを体験する。 児童が提案をし、俳優が応え、個々が何らかのリアクションを返し、俳優が影響を受け、問いを	個人が正解を出す場にならないように注意したい。 理想は誰かの意見によるものではなく、集団で相応しい形が出来上がったという認識になるよう	

借りた消しゴムを「ありがとう」と言 って返してるのだが、あまりうまくい ってない演劇講師に演出をつけてみ よう。	返し、児童が提案をし、という循 環を創る。	にしたい。
黒板に書かれた詩を俳優が読む	詩と出会う	素読みに近い形式で読む。
課題発表 「演劇講師があまりこの詩を理解でき ないので、どう読んでいいのかわから ないので、協力してほしい」	演劇講師が抱えている課題を、 参加者全員で解決しようする環 境をつくる。	「授業者が学習者に課題を与え る」という構図にならないように。 授業者の授業中における気付き は、学習者の気付きと同じ価値を 持っているため、気付きは共有する ように。 素読みに近い形式で読む。
朗読劇創作	宮越由貴奈さんの詩「命」につ いて俳優の身体を通して参加者 みんなで話し合う時間を提供する。	
後半の教材文（R54-55）を読み聞か せ	他者との出会い （多角的、多面的な詩との出会い 方を知る）	
振り返り 道徳ノートに記入	自己との対話 発問「命という詩で、ゆきなさん が伝えたかったことはなんでし ょう？」	

学習指導略案実施モデル2

主題名	人間の力をこえたもの	内容項目	D 感動，畏敬の念
学年	5	教材名	青の洞門
演劇的手法 のねらい	感動、畏怖の念は「美しいものや気高いものに感動する心や人間の力をこえたものに対する 畏敬の念をもつこと」とある。実之助が了海に抱いた感動や畏怖の念を、その表情や立ち姿な どから、想像を深めていきたい。心の内を想像させたい。		
学習活動（提示）	ねらい	注意点	
自己紹介 自分たちは俳優なのだが、青の洞門を 演じるのが難しくてちょっと皆さんに 協力してほしい。 演劇紹介 ジェスチャーゲーム	安全な場を形成する	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーゲーム お互いの存在を承認し、他者と違 うことが許される安心・安全な場 作り ・失敗しやすくなる場作りを心 がける。 ・講師は教えるのではなく、児童 と一緒に「感動・畏怖の念」を考 える立場である事を共有する。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・教材導入 ・「青の洞門」の読み聞かせ 	<p>「青の洞門」の読み物の前提、見所、大切にしてほしいところなどを先生から児童に伝え、読み聞かせをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生から読み物の説明、あらすじなどを児童に。 ・序盤は了海の人間味を出し、終盤は実之助の葛藤が伝わるように。
10分 休憩		
「青の洞門」を演出しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・実之助と了海が並んで「のみ」をふるう場面 ・実之助が了解を「おししょうさま」と呼ぶ場面 <p>以上2つの演出プランをチームごとに考え、俳優2人に実際に演じてもらう。</p> <p>立ち位置、セリフの言い方、目線、段取り、きっかけ、新たなセリフ創作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チームごとに演出プランを考える 表情や立ち位置、セリフの言い方、聴き方で伝わるものが変わるという事を体感してもらう ・その場面をどういう風な場面にしたいのかを各自で考え、ワークシートに記入する ・ワークシートを元に何人かが演出をし、場面を作っていく。 <p>主な発問 「なぜ俳優にその指示を出したのか？」</p> <p>「なぜその芝居をやってほしいと思ったのか？」</p>
まとめ	先生からのまとめ	

【文献】

- *1 文部科学省：小学校(中学校)学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編，2017
- *2 文部科学省：第3期教育振興基本計画，2018
- *3 藤井千春「我が国における道徳教育の展開」佐野安仁・荒木紀幸編著『道徳教育の視点』（第4版第1刷）晃洋書房，2018
- *4 中村美智太郎，鎌塚優子，上野博史：道徳教育における現代的課題に対応したケース開発と実践の検討，静岡大学教育実践総合センター紀要，28，39 - 47，2018
- *5 森有希，植松拓：中学校における役割演技を用いた道徳授業に関する効果の検討，高知大学教育実践研究，32，169-178，2018
- *6 渡辺貴裕：教育方法としてのティーチャー・イン・ロールの意義，日本教育方法学会紀要「教育方法学研究」，33，2007
- *7 渡辺貴裕：イギリスのドラマ教育における「専門家のマント」の展開，教育方法学研究，40，2015

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 蓮行・末長英里子
2. 発表標題 演出技法を応用した、道德教育手法の実践的開発 演劇的アプローチからの道德教育手法の設計
3. 学会等名 日本協同教育学会(JASCE)第18回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 蓮行
2. 発表標題 オンライン授業で活用できる『演劇的手法』
3. 学会等名 初年次教育学会第14回大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 谷口忠大, 中川智皓, 蓮行, 井之上直也, 末長英里子, 益井博史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 288
3. 書名 コミュニケーション場のメカニズムデザイン	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤川 信夫 (Fujikawa Nobuo) (10212185)	大阪大学・大学院人間科学研究科・教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 貴裕 (Watanabe Takahiro) (50410444)	東京学芸大学・教育学研究科・准教授 (12604)	
研究分担者	川島 裕子 (Kawashima Yuko) (60824068)	大阪成蹊大学・教育学部・准教授 (34437)	
研究分担者	末長 英里子 (Suenaga Eriko) (80912310)	京都大学・経営管理研究部・特定助教 (14301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	紙本 明子 (Kamimoto Akiko) (20973572)	大阪大学・大学院人間科学研究科・特任研究員 (14401)	
研究協力者	元林 伸雄 (Motobayashi Nobuo)	劇団衛星・俳優	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------